

島根高P連だより

第54号

2018.7.15

発行・編集 島根県高等学校PTA連合会事務局 松江市黒田町538 TEL/0852-22-8602 FAX/0852-22-8735
E-mail: shimakp@orange.ocn.ne.jp URL: http://www.shimakp.sakura.ne.jp/



出雲高校

出雲市副市長への提言



久徴祭（出雲市民会館）



キッズのためのスーパーサイエンス



2年理数科シンガポール研修



松江工業高校

文化祭



体育祭選手宣誓



ジョギング大会



浜田水産高校

カッターソー艇実習



しまね教育の日奉仕作業



新巻鮭実習



たこのくん製づくり

神海丸マグロ漁業実習

目次

- 「人間らしく」「島根らしく」
島根県高P連会長 大屋 光 宏 2
- 第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会に向けて
島根県高P連副会長 古 居 晃 2
- 平成三十年度島根県高等学校PTA連合会総会開催 3
- 社会総がかり、地域ぐるみの人材育成
全国高P連顧問 佐 野 元 彦 氏 4
- 全国高P連大会島根大会「基本構想」策定 4
- PTA活動紹介 出雲商業高校 5
津和野高校 5
- 平成30年度人権・同和教育「PTA活動」育成事業 6

「人間らしく」「島根らしく」



島根県高等学校PTA連合会会長
(島根県立天上高等学校PTA会長)

大屋 光宏

本年度、島根県高P連の会長を務めます、大屋光宏です。みなさまには、日ごろのPTA活動への参加と協力に対して心よりお礼申し上げます。

大学入試制度が変わることはみなさんご存知のことだと思います。試験制度が変わる本質はこれからの社会を担っていく子どもたちに求められる能力が変わってきたためです。

これからは、基本的技術の習得や基礎的知識の蓄積だけでなく、得た知識や技術をいかした「課題探求力と問題解決力」、グローバル教育という言葉に代表される「世界的視野を持つこと」、そして激しい時代の変化に対応できる「瑞々しい創造力」が必要です。マニュアルにとらわれることなく自ら考え行動することができ自尊感情の高い「人間らしさ」も必要だと感じます。

短絡的ですが、島根でこれらの力をつけるための一つの答えが「ふるさと教育」ではないでしょうか。美しい景観、豊かな自然、各地に伝わる伝統芸能など島根は世

界に誇ることができ豊富な地域資源を持っています。東京と島根では経済格差をはじめ教育、文化などあらゆる面で格差があるとされています。これらの格差を埋め、島根でこれからの社会で必要となる能力を身に着けるための教材が「ふるさと教育」であり、「島根らしい」教育であると思っています。

現在、本会の大きな事業は二〇二〇年の島根での全国高P連大会開催です。多くの会員のみなさんが何らかの形で大会準備に関わっていただくこととなると思います。変化の激しい社会のなかで、「島根らしい」教育を行い、「人間らしく」子どもたちを育てることの必要性を共有し、私たちPTAや保護者の役割を考える機会になればと願っています。

今後もPTA活動が、子どもたちの学力、体力そして心の健やかな成長を支えるとともに、参加する会員のみなさんの学びの場となるよう努めていきます。引き続き本会の活動にご理解ご協力をお願いします。

第70回全国高等学校PTA連合会大会 島根大会に向けて



島根県高等学校PTA連合会副会長
(島根県立天上高等学校長)

古居 晃

昨年度に引き続き、校長協会を代表し島根県高P連の副会長を務めます矢上高校の古居 晃と申します。会員の皆様方には、日頃から各校単位PTA活動、そして県高P連の諸活動にご尽力いただいていますことに改めて敬意を表し感謝申し上げます。

さて、昨年度の島根高P連だより第52号でお知らせいたしました、「第70回国高等学校PTA連合会大会島根大会」開催につきまして、これまで五回の全国大会準備対策委員会を開催し、基本構想、大会概要、準備組織等について協議を進めてまいりました。今後は、準備委員会(来年度には実行委員会)を立ち上げ、さらに諸準備を加速させてまいります。

この全国大会は毎年各地で開催されており、約一〇、〇〇〇人前後の会員が全国各地から参加している大規模大会です。島根のような小規模な県が、準備・運営をするというのは間違いなく大変なことと想像されますが、島根県高P連の全加盟校が一致団結して取り組むことは、各単位PTA同士の絆が深まるとともに、今まで以上に活発なPTA活動がこの大会を契機に展開されていくと確信しています。

島根大会開催の二〇二〇年は、折しも東京オリンピック・パラリンピックの

年。二〇一三年九月八日、ブエノスアイレスで開かれたIOC総会での、滝川クリステルさんによる東京大会誘致プレゼンテーションの記憶が蘇ります。

「皆様を私どもしかできないお迎え方をいたします。それは日本語ではたつた一言で表現できます。『お・も・て・な・し』それは訪れる人を心から慈しみお迎えするという深い意味があります。『中略』…そして訪れた方、全てに生涯忘れえない素敵な思い出を残すことでしょう。」

島根大会では、一堂に会する施設がなく、全体会も三会場(島根県民会館・松江市総合体育館・くにびきメッセ)となります。また、分科会も前述の会場と安来市総合文化ホール、三刀屋文化体育館、出雲市民会館での開催となり、全国から参加される方にはご不便をおかけすることになると思いますが、人生で一度の交会と思い、心を込めて客人を迎えるという「一期一会」の思想による『おもてなし』、『ご縁の国しまね』らしい『おもてなし』を皆様と一緒に考えていきたいと思っています。二〇二〇年の夏は、東京(オリ・パラ)で感動し、島根(全国高P連大会)でも感動する、そんな夏にしたいものです。島根県高等学校PTA連合会会員の全ての皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。

平成三十年度島根県高等学校PTA連合会総会開催

平成三十年度定期総会は、六月九日（土）松江市の労働会館で、代議員七十三名が出席して開催された。

大屋会長は、開会に当たり県高P連の様々な活動にご協力をいただいていることに感謝の意を表した。その後、社会の大きな変化に対応し二〇二〇年度から大学入試が大きく変わることに触れ、島根県で行われている「ふるさと教育」がこれからの社会で必要となる力を身に着けるための「島根らしい」教育であると紹介した。また、二〇二〇年八月の全国高P連大会島根大会に向けて協力を呼びかけた。



鴨木朗県教育長挨拶



新役員紹介

平成30年度島根県高等学校PTA連合会役員表

役員	選出地区等	氏名	所属高校	所属校校長
会長	西部	大屋 光宏	矢上	古居 晃
副会長	東部	坪倉 大吾	松江北	小山 理久
	中部	長岡 篤出	雲工業	吾郷 信博
	女性代表	塩毛 七栄	松江東	野々村 卓
	校長協会	古居 晃	矢上	
評議員	松江	小川 祐幸	松江南	津森 敬次
		太田 敦久	松江商業	岡崎 豊年
	雲南	難波 一志	三刀屋	佐藤 睦也
	出雲	佐々木 邦子	平田	坂根 昌宏
	大田	佐藤 龍美	島根中央	木原 和典
	浜田	田中 耕太郎	浜田商業	曾田 裕司
監事	益田	森 光	益田翔陽	吉岡 正弘
	東部	高橋 幸治	松江工業	
	中部	原 憲一	大東	
事務局	西部	林 幸一	津和野	
	事務局長	勝部 昌幸		
	事務局次長	恩田 佳雄		
	事務局員	加藤 淳子		

また、来賓の島根県教育委員会鴨木朗教育長からは、日頃の学校運営に対し保護者の理解・協力に対し謝意を表した後、教育の目標は生徒がこれからの社会の中で生き抜いていく「本物の力」を育成することであり、この「本物の力」を学校と保護者が協力して育成しようという呼びかけがあった。

その後、全国高等学校PTA連合会顧問で前会長の佐野元彦氏より「社会総がかり、地域総ぐるみの人材育成」と題した講演を聴き、研鑽を深めた。詳細は④ページに掲載する。

その後、議事に入り、大屋会長を議長

に選び、第一〜七号議案を承認後、第八号議案で左表の通り新役員が決定した。そして新旧役員からそれぞれ挨拶があった。続いて、大屋会長を議長に再選し、第九号議案以下、提案された議案はすべて承認された。

次に提出議案を紹介する。

- 一、平成二十九年度会務・事業報告
- 二、平成二十九年度会計決算及び監査報告
- 三、全国大会準備対策委員会報告
- 四、全国大会基本構想（案）
- 五、準備委員会組織（案）
- 六、全国大会佐賀大会・京都大会視察
- 七、県高P連関係各表彰の被表彰者の決定（報告）並びに全高P連等表彰等の推薦
- 八、平成三十年度役員（案）

九、平成三十年度活動方針（案）

十、平成三十年度主要行事予定（案）

十一、平成三十年度予算（案）

十二、報告事項

十三、その他

第七号議案については、表彰規定によつて、総会直後の表彰式で大屋会長から次の方々に表彰状が贈呈され、永年のご苦労とご功績に対して謝意を表した。

感謝状贈呈（敬称略）

山田 義則（江津高校）
増本 祥子（吉賀高校）

表彰状贈呈（敬称略）

加藤 隆志（安来高校）
中西 誠（松江工業高校）
久保田英治（浜田高校）
石川 和博（津和野高校）
八幡 洋公（隠岐水産高校）

また、全国高P連会長表彰に次の団体を推薦することとした。そして、文部科学大臣表彰のPTA活動振興功労者表彰（個人）に次の二名を推薦することとした。

平成三十年度全国高P連会長表彰

団体表彰候補
横田高等学校PTA

平成三十年度PTA活動振興功労者表彰（個人）

個人表彰候補（敬称略）
松尾 強（元島根県高P連会長）
秦 征治（前島根県高P連事務局長）

平成三十年度総会研修 社会総がかり、 地域総ぐるみの人材育成

(一社)全国高等学校PTA連合会
顧問 佐野 元彦 氏

今年の総会時の研修会には全国高等学校PTA連合会前会長で顧問の佐野元彦氏を招聘し、標記のテーマでご講演をいただいた。以下は、研修会の要旨である。

激しく変化する社会状況と教育について

かつての「成長の時代」から「成熟の時代」へと時代が動いている。「均一な価値観」よりも「多様な価値観」が重視され、物の生産も「大量生産」から「多品種少量生産」へと変化した。インターネットやSNSが普及し、誰でも簡単に情報知識が入手でき、一人一人が情報発信できる時代となった。そして、AI、IoTやロボット技術の発達により、未来の雇用は大きく変わると予想されている。二〇三年のオックスフォード大学のオズボーン准教授の論文「雇用の未来」によれば、今ある仕事の半分はAIが代替するようになるという。人間がAIに勝るものは創造性やマネジメント(資源・資産・リスク最適化)やホスピタリティ(おもてなしや思いやり)、課題を発見する力であり、これらを必要とする仕事が生き残る。

このような社会状況の変化に対応し、教育も大きく変わらなければならない。知識の定着や反復力を評価する大学入試に象徴される日本の教育を改革する動きが進行中である。「学力」の再定義が行われ、知識、技能だけでなく思考力、判断力、表現力を重視し、習得した知識・技能を活用し、答えが一つではない課題に自ら答えを見出す力や主体性、多様性、協働性を重視している。新しい学力観に対応するため「多面的な評価」が必要となり、知識・技能に加え、部活動、生徒会活動、ボランティア活動、インターンシップ、留学等、日々の活動での幅広い資質能力の評価が必要となってきた。同時に指導方法の改善も進み、アクティブラーニングが導入され、「対話的で深い学び」が進められている。大学入試改革が始まり、記述式を取り入れた大学入学

共通テストや英語四技能の外部検定も始まる。また、個別の大学入試においても筆記試験だけの一発勝負ではなく、過去の積み重ねの多面的評価も始まる。

どのような人に未来を託すのか。そして未来を担う人をいかに育むか

これからの未来を託す人とは、高い志を持ち、多様な視点を持ち、周囲の人や社会の役に立つことを自らの喜びとする姿勢や課題解決に取り組む意欲を持ち、激しく変化する社会を生き抜く力が必要である。教養に根ざした深い人間性を持ち、ふるさとに立脚し、世界を意識するグローバルな生き方をしている。

そのような高い志を持つ人材を育成するためには、キャリア教育を実践していく必要がある。キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育て、キャリア発達を促す教育である。それには次のようなことが考えられる。家庭・学校・地域で人の役に立ち、褒められ、感謝される機会を作り、有自己肯定感や人間力を育み、社会を生き抜く力を高める。ふるさとを支える自覚や社会への参画意識を高め、課題を解決するために考え、行動する人材を育てる。子どもたちは社会や未来からの預かりものである。子どもを自立させるためのフィールドとなる家庭・学校・地域が力を合せて、社会総がかり、地域総ぐるみで人材を育てる。

二〇二〇年全国高P連大会島根大会への期待

記念講演や分科会の視聴や参加者との交流を通して「この取り組みをうちの学校でもやってみたい」と気づきの機会となることを期待したい。また、島根の取り組みを全国へ発信する機会でもある。島根県で行われている「親学プログラム」は、学校・家庭・地域が連携して、地域ぐるみで子育て世代を支援するための大変よいプログラムだと思っている。島根大会がPTA同士、そして学校・家庭・地域の繋がりを強くする機会となることを期待している。



講演中の佐野元彦顧問

全国高P連大会島根大会「基本構想」策定

加盟校が一つになって島根大会の準備推進を

県高P連が主管する全国高P連大会島根大会の開催が二年後に迫って参りました。県高P連では、昨年度より全国大会準備対策委員会を設置し、準備の基礎づくりを進めて来ました。本年度は、八月五日(日)に松江サンラボ・むらくもに於いて、第一回準備委員会を開催し本格的な準備に取りかかることとなります。この会では、県内高校から原則としてPTA会長、校長の二名に出席いただき各高校の役割分担に沿って大会の企画・運営や宿泊・輸送などに関して方針を決定していくこととなります。

この会に先立って開催された平成三十年度の定時総会(六月九日(土) 於労働会館)では、島根大会の「基本構想」が決議されました。その中に全国大会を主管する意義として、「全国から、約一万人の参加者が集うこの大会は、全国に島根県および島根県の教育を発信する絶好の機会である」とともに、島根県高P連内での交流がさらに活発となり、生徒の健全育成を今までの以上に進める契機となることを期待される。「全国からの参加者を島根県らしいおもてなしでお迎えし、開催の意義や理念を広く発信する場とする。大会に向けて設置する準備委員会及び実行委員会は、全単位PTAの代表で組織し、開催計画・準備計画の意思疎通を図る。大会運営についても、全単位PTAから参加者を出し、参加者には大会参加と同時に大会役員・大会係員等の役を担っていただくこととする。島根県高P連全会員が結束して、大会成功に向けて一丸となりたい。」と掲げています。県高P連事務局としても県高P連の会員一人一人が一つになって大会の準備推進をお願いしたいと思います。左記に今までの決定事項と今年度の主な予定を期しておきます。

大会期日 二〇二〇年八月一九日(水) 前日会議等

八月二十日(木) 分科会(午後)
八月二二日(金) 全体会(午前)

大会テーマ 「ア・縁(えん)づくり」
「い・縁をつなぐ世界へ、未来の子どもたちへ、く・にびきメッセ」
分科会会場 安来市総合文化ホール・三刀屋文化体育館・出雲市民会館
今年度の主な事業・会議

平成三十年 六月 県内高校生に大会ポスターシンボルマーク原図募集
平成三十年 八月五日(日) 第一回準備委員会 サンラボ・むらくも

平成三十一年 十月六日(土) 第二回準備委員会 島根県民会館
十二月二十二日(土) 第二回準備委員会 島根県民会館
平成三十一年 二月十六日(土) 大会ポスター・シンボルマーク発表



次期開催県の佐賀県高P連のあいさつ
(静岡大会閉会式 平成29年8月25日)

PTA活動紹介

出雲商業高校PTA活動

島根県立出雲商業高等学校

PTA会長 森 廣 雅 樹

出雲商業高校は今年の三月で、卒業生一八・二八〇名を数えます。また、これまで県内外の産業界に多くの人材を輩出しています。

その伝統ある出雲商業高校は、昨年創立一〇〇周年を迎えることができました。

出雲商業高校のPTA活動では、三つの専門部（委員会）で構成され活動を行っています。それぞれの委員会の主な活動を紹介します。

「生活指導委員会」では、九月二十一・二十二日に行われました秋の交通安全運動期間中、生徒のみなさんの登校時間帯に立ち、マナー指導と挨拶運動を行いました。また、十二月二十二・二十五日には、市内をパトロールし、生徒のみなさんの安全確認と現状を把握しながら保護者同士の交流を深める活動をしました。

「商業委員会」では、委員会のメンバーを中心に、毎年十二月初旬の二日間の日程で開催されます出商デパート（今年で十三回目を迎えます（大規模販売実習）の後方支援として、食堂等の運営に携わりながら生徒のみなさんの助力になればと活動しています。この催しものは、体育館をメイン会場にして、県内外の物品を取り扱ったの販売活動や食堂・イベントの運営などさまざまな催しものを行っており、学んだことを実践す

る場として、生徒のみなさんはいきいきと取り組んでいました。その様子は、普段の家庭では見られない真剣な顔と日頃体験できないお客様との接客から、笑顔とはきはきとした挨拶が各店舗から聞こえました。

「斐桜の会」では、体育祭給水所やPTA研修会の活動を行っています。九月上旬に開催された斐桜祭（体育祭）では、給水所を設置し、生徒のみなさんの熱中症対策など健康面をサポートする活動を行いました。

また、十一月十八日には、すべての保護者の皆さまに案内してPTA研修会を開催しました。この研修会では、保護者のみではなく、保護者・教職員も親睦を深められた楽しい会となりました。今年度も研修会を企画し、多くの保護者の方に参加していただくような活動を考え検討しています。



PTA研修会



斐桜の会（体育祭：給水活動）



出商デパート（食堂：盛り付け）

津和野高PTA活動紹介

島根県立津和野高等学校

PTA会長 林 幸一

島根県の西端に位置し、豊かな自然と歴史的景観の城下町津和野町。その津和野町にある津和野高校は、津和野藩の藩校「養老館」の教育の精神を受け継ぎ、今年創立百十周年を迎えます。そんな津和野高校のPTA活動を紹介いたします。

津和野高校PTAでは、大きく分けて
・総務部
・寮務部
・広報研修部
・体育厚生部
という各部会に分かれて活動しています。

「総務部」では、PTA会長を中心に、校内総務部と共にPTA事業全般を通しての企画・運営を行っています。

「寮務部」は、県内をはじめ全国から津和野高校へと通学する生徒の皆さんにとってなくてはならない部会で、入寮する生徒の保護者の方々を中心に、より良い寮生活の為に活動しています。

「広報研修部」では、PTA会報の編集発行、進学・就職や人権教育に係る研修会への参加など積極的に取り組んでいます。

「体育厚生部」では部会メンバーを中心に、PTA会員皆さんに広くお声がけし、津和野高校の名物行事・萩市松陰神社



体育祭バザー



かき氷

から津和野高校まで徒歩で移動する「鍛練行事」の企画運営や、学園祭バザーの運営などを行っています。行事に参加された皆さんからは、「いつもの子供達とは違った一面が見られて大変良かった。」とのご意見も頂きました。更に全体を通して、各種PTA連合会の大会や研修会への参加も会員皆さんに情報提供し、積極的に参加を行っています。

また、歴代のPTA会長や地元の皆さまに顧問として在籍して頂き様々なアドバイスを頂戴したり、学園祭バザー等においてはPTAのOB会員の皆さんも運営に積極的にサポート参加していただいております。このように、現役PTA会員の皆さんだけでなく、OBや地域の方々にも活動に関わっていただいているというのは、当校PTA活動の大きな特徴ではないかと思っています。

これからもこのような様々な「ご縁」を大切に、PTA会員の皆さんとより良いPTA活動を行っていきたいと思っています。

平成三十年度人権・同和教育 「PTA活動」育成事業 人権・同和教育研修会

平成三十年五月十一日（金）に島根県庁六階において平成三十年度人権・同和教育「PTA活動」育成事業 人権・同和教育研修会が開催された。この事業は、島根県教育委員会が、県内の幼稚園・こども園、小・中学校、高校、特別支援学校のPTAから単位PTAをモデル指定し、PTA会員一人一人が様々な人権問題に対する正しい理解や認識を深めるとともに、学校や家庭における人権・同和教育のより効果的な推進を図る目的で毎年行われている。当連合会からは、平成三十年度・三十一年度の育成事業指定PTAである松江商業高校PTA、吉賀高校PTAの他、参加希望のあった単位PTAから十名が参加した。松江市立しんじつ保育園PTA、海士町立海士小学校PTA、奥出雲町立横田中学校PTAから育成事業の中間発表があった。

午後からは、島根県人権啓発推進センターの藤原博詩啓発指導講師による「こどもの『やる気』を高めるために、自尊感情を育む」と題する講演があった。平成二十六年度版の内閣府「こども・若者白書」によれば日本の子どもたちは「自分自身に満足している」割合が他国よりも低い。藤原講師は、自分自身を大切に思う気持ち「自尊感情」がなければ他者の人権を尊重する「人権意識」も育たず、子どもたちがありのままの自分を親や教師たちから認められ、褒められ、愛されるなかで「自尊感情」が育まれると指摘し、子どもたちが自分のことを大切にされていると実感できる環境を作っているという話があった。子どもたちと心の通い合うコミュニケーションを取りながら人権意識を育むことの大切さを改めて理解できた研修会となった。毎年、この時期に実施されるこの研修会にできるだけの多くの会員の皆様のご参加をお願いしたい。



しまね学生登録

進学希望の方は
覚えておいてね！



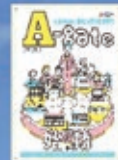
「しまね学生登録」とは、高校卒業後、進学される方が利用できる登録制度です。ふるさと島根の情報や学年に応じたイベントの案内をタイムリーにお届けします。登録については、高校卒業前に学校を通じてご案内します。



企業
ガイドブック
県内企業の
探知情報満載！



しまね学生
インターンシップ
夏期・春期
(5日程度)



A-gate
学生による
就活応援情報誌

※就活情報だけでなく島根の魅力がいっぱい詰まった情報誌等をお届けします！

【お問合せ】ジョブカフェしまね 〔松江〕0120-67-4510・〔浜田〕0120-45-4970
〔公財〕ふるさと島根定住財団

「ジョブカフェしまね」とは…

学生(大学・短大・専修学校)の就職活動を支援しています！

あなたが島根を支える人材になってくれることを心から願っています。あなたが島根で働けるように、私たちが全力でサポートします！



しまねわくわく仕事体験

知らない仕事を体験しに行く高校生のためのインターンシップ

知らない仕事を体験しに行く高校生のためのインターンシップ

島根県内の高校生を対象に、自宅等から通勤困難等の理由で参加できない遠距離地域でのインターンシップについて、交通費・宿泊費を助成します。

第1次募集締切：平成30年9月28日（金）※学校を通じてお申し込みください。

【お問合せ】島根県 県工労働部 雇用政策課 TEL：0852-22-5365

事務局だより

上記の人権・同和教育研修会の中で、日本の子どもたちは「自分自身に満足している」割合が他国の最低が七十一・五％であったのに対し、日本は四十五・八％と大きな差があるという話がありました。「自己有用感」という言葉がありますが、学校や家庭でも「君が〇〇してくれて本当に助かっているよ」と褒められ、認められてきた人は「自己有用感」を感じ、自分を肯定的にとらえることができるそうです。本来、自己が確立していない子どもや若者は自分に自信がなく不安なので、親や指導者から「君は〇〇できるところがないよ」「ことを伸ばせば必ずうまくいくよ」と言葉をかけてられ、認められることができないと自信を持ち、自分を伸ばしていくことができると紹介がありました。私たち大人が子どもにときに褒められた経験をあまり体験していないと、子どもの可能性を信じ、褒めるのは難しいと感じるかもしれません。でも、自分の子どもが幼い頃「〇〇が一人でできるようになったね。えらいね。」などと褒めていたと思います。高校生になっても褒められて悪い気はしないはず。ちやうとしたことも褒め続けられれば「自己有用感」が育ち、成長し、社会全体が子どもたちを褒めたり、肯定的な言葉をかける社会になれば、時間はかかるかもしれませんが、諸外国の子どものように自己肯定感の高い子どもが育つのではないかと研修会で感じました。

事務局では、高P連全国大会島根大会まで「あと〇日」というめぐりカレンダーを作りました。七月十五日で「あと七百六十七日」です。会員の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

東日本震災の義援金募集活動の終了について

平成二十三年三月二十三日から会員の皆様にご協力をいただきました全国高等学校PTA連合会の東日本大震災義援金募集活動は平成三十年六月十九日で終了することになりました。ご協力いただきました全国の義援金の総額は一億三千八百二十六万四千円、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、新潟、長野の八県へ配分されました。ご協力ありがとうございました。